

# 令和5年度 日本精神科医学会学術教育研修会 報告

## 事務部門

伴 亨 遠藤 謙二

令和5年度日本精神科医学会学術教育研修会「事務部門」は「コロナ後を見据えた精神科医療を改めて考える」をメインテーマに11月16日（木）～17日（金）の2日間、山口県支部の担当により全日程集合開催で行われた。会場の「かめ福オンプレイス」には北は北海道から南は沖縄まで全国から208名が参集した。

第1日目には開講式が行われ、山口県支部長稲野秀先生による開講挨拶、日本精神科医学会会長の山崎學先生による学会長挨拶が行われ、引き続き、来賓の山口県知事の祝辞を國吉宏和健康福祉部長が代読され、続いて伊藤和貴山口市長、加藤智栄山口県医師会長の皆様から祝辞をいただいた。

最初の講演1は、稲野秀支部長の座長のもと「精神科医療の将来展望」と題して、山崎學学会長が講演された。日本の精神科医療の歴史の中で民間精神科病院がどう関わってきて今日があるのか、精神科医療体制や諸外国との比較の問題点、令和6年度の診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬の三報酬同時改定に対する日精協の方針を熱く述べられた。

午後からの講演2は、土屋直隆先生の座長のもと「医療DXの動向について」をテーマに株式会社ジインズ東京事務所マーケティング開発部 川田康友先生が講演された。DXの定義や医療に対する必要性を力説された。続く講演3においても川田康友先生が「サイバーセキュリティ対策について」と題して講演され、座長は泉原病院院長大楽良和先生が務められた。電子カルテの運用は現実的には外部との接続が不可欠なので種々の対策が提案されているが、OSやウイルス対策ソフ



トのバージョンアップ等を欠かさないことが基本であると説明された。

講演4では、萩病院院長 小野信周先生を座長に「2024（令和6）年度診療報酬改定の動向について」と題して医療法人葛の会たなか病院副院長・松本善郎先生が講演された。診療報酬の請求で注意すべき点、令和6年度の診療報酬に対する日精協の取り組みについて述べられた。

18時から懇親会が着席で行われ、地元の料理や地酒をゆっくり味わうことができ、山口県立大学のよさこい音頭に会場は盛り上がり、参加者を元気づける素晴らしい懇親会であった。

第2日目は野村病院理事長・院長 野村道次先生の座長のもと講演5が行われた。「働き方改革の実現に向けた取組みについて」と題し、ゆき社労士事務所所長 梅田有紀先生が講演された。働き方改革の経過、済ませておかなければならない36協定や宿日直許可の取得等について丁寧に解説された。

最後の講演6は下関病院理事長・院長 水木寛先生を座長に「災害時のBCP -主に精神科病院の通信手段について-」と題し、医療法人清陵会南ヶ丘病院院長 小原尚利先生と医療法人高柳会赤城病院理事長・院長 関口秀文先生が講演された。最初に小原先生から、DPAT（災害派遣精神医療チーム）およびCSCATTT（大規模事故・災害において体系的な医療活動を行う際に必要な七つの基本原則）について説明され、災害時でも病院運営を円滑に進めるための方策について自身

の病院の取り組みを紹介し、災害が起きてからではなく、EMIS（広域災害・救急医療情報システム）の入力など普段備えておくべき事柄を分かりやすく解説された。続いて、関口先生が、災害が起きると通常の電話が通じなくなるので、その対応として衛星通信システムの有用性を強調された。

引き続き閉講式が行われ、受講生代表へ受講証と稲野秀支部長へ感謝状が日精協・遠藤謙二理事により授与され、伴亨副会長より参加者の皆様と充実した研修会を開催していただいた山口県支部

の皆様に謝意が述べられた。最後に、土屋直隆副支部長の閉講の挨拶をもって2日間の全日程が終了した。

コロナ禍の影響で集合開催に踏み切る決断が難しかった中で、開催準備を進められた稲野秀支部長をはじめとする山口県支部の諸先生やスタッフの皆様の努力に敬意を表すると同時に深く感謝いたします。

（日本精神科医学会  
学術教育推進制度学術研修分科会）